

京都検定講演会講師による‘よもやま話’。京都検定を通じて、京都の魅力を再発見しましょう。

## 後鳥羽上皇と承久の乱

京都検定では、公開テーマのほかにも毎回様々なテーマで出題しています。今回は昨年12月実施の第19回1級に出題の「後鳥羽上皇と承久の乱」について解説します。

【講師】

山村 純也  
株式会社らくたび  
代表取締役



2022年のNHK大河ドラマ「鎌倉殿の13人」では、北条義時を中心に鎌倉幕府の創成期の物語が展開される。その中で、義時にとって大きな試練として立ちはだかるのが「承久の乱」(1221年)であろう。

幕府によって守護や地頭が置かれたとはいえ、西国では朝廷が治めていた土地も多く、幕府の支配が全てには及んでいなかった。しかし膨大にあった朝廷の荘園にも地頭が設置されていくと、後鳥羽上皇を中心とした朝廷側は危機感を覚える。さらに源頼朝の血を引く源実朝が暗殺されると、幕政の中で北条義時が政権を握り、朝廷との対立が顕著となった。

義時に対して怒りを露わにする

後鳥羽上皇は、『新古今和歌集』を編纂するなど歌道に精通していたほか、蹴鞠、香道などといった文化的教養はもちろん、武芸、乗馬、水練に至るまでこなす傑出した人物であったことから、自分が動けば幕府を倒せると考え、義時追討の院宣を発するに至る。そして城南離宮での流鏝馬神事にかこつけて西国の武士を動員、ついに戦いの火ぶたが切れて落とされた。時代祭の行列の一つである城南流鏝馬列はこのシーンが再現されている。

院宣を出されて朝敵となった幕府は、北条政子の演説や大江広元の積極策もあり、京都へ追討軍を即座に派遣、破竹の勢いで19万騎(『吾妻鏡』)に膨れ上がった幕府に対し、慌てた朝

廷側に集った西国の武士は幕府側の10分の1以下と少なく、とても勝ち目はなかった。後鳥羽上皇は隠岐島、順徳上皇は佐渡島、土御門上皇は四国へと配流、幼少であった仲恭天皇も廃された。鎌倉幕府はこれを機会に六波羅探題を設置して西国統治の要とし、ここに武家政権が本格的に始まったのである。



城南流鏝馬列【提供 平安神宮】

## 第19回 京都・観光文化検定試験を実施しました

去る12月12日(日)に第19回京都検定を実施し、8歳から90歳までの老若男女5,253名が受験しました。1、2級は昨年度に比べ受験者が増えたほか、3級は新たに7月にも実施したことから、年間の受験者数は昨年度を上回りました。1級では、「聖徳太子没後1400年」や今年の大河ドラマでも描かれる「後鳥羽上皇と承久の乱」など、多彩なテーマで出題しました。



第19回を含む、過去の京都検定の問題は京都新聞Webサイト「きょうの京都検定と京都検定問題と解答」でご覧いただけます。

京都検定 京都新聞

検索



2021年11月12月号「京都検定公開テーマよもやま話」に誤字がありました。お詫びして訂正いたします。

・宝泉院の額縁庭園(本文8行目) 【誤】盤垣園 【正】盤桓園